

# 地域おこし協力隊 活動記 Vol.119



今回は、JA相馬村と相馬小学校が連携しておこなった「田んぼ学習」の振り返りをしたいと思います。社会科で米づくりを学ぶ5年生が、田んぼで実際に稲作を体験すれば、教科書だけで勉強するよりも学びが深まるはず！ 相馬小の工藤校長先生、地域コーディネーターの田澤真由美さん、JA相馬村農業振興課・女性部と想いを共有し、今年度から「田んぼ学習」が始まりました。

学習のスタートは播種の見学でした。塩水を使って選別された品質のよい種もみの袋を持って重さを確かめたり、種もみや土

が育苗箱にまかれていく様子や水蒸気で加温して発芽させる機器を見学したりしました。身近に「田園ステーション」があったからこそできた、相馬ならではの見学になりました。

次に田植えをしました。田澤さんのご厚意で田んぼを貸していただき、一部を手植えするような形になりました。はじめに農業振興課の佐々木さんから苗の植え方のレクチャーを受け、後はひたすら田植え作業をしました。苗に触ったり田んぼに入ったりするのが初めての子どもが多かったみたいです。楽しそうにしていました。

そして、ついに収穫！ 鎌を使った昔ながらのやり方で稲刈りをしました。農業振興課や女性部、インターシップで来ていた大学生の手伝いもあった、安全で有意義な時間となりました。残暑が厳しく、暑い中での作業であったこともあって、暑くても雨のなかでも仕事をする農家の大変さや偉大さを実感しているようでした。

ラストはおにぎり作り！ 自分たちで育て、収穫したお米「青天の霹靂」をつかって、おにぎりを作りました。その他銘柄米でも作って、お米の食べ比べもし



ました。初年度の取り組みにしては、よくできたほうではないでしょうか。

ここからは次年度への提案です。代掻きや水位管理、ドローンによる農薬散布なども見学できればいいと思いますし、収穫した米の一部を天日干しして、手作業で脱穀・粳摺り・精米をしても面白いのではないかと思います。社会科、家庭科、総合的な学習の時間との横断的な学習としての「田んぼ学習」に発展し、次年度以降も続いていけば嬉しい限りです。ご協力いただいたすべての方に感謝申し上げます。へば！

